# 令和３年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。
このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

## ◎　教育及び保育の配慮

・子どもの感情の理由を考えることで、求めている関わりができるようにした。
　言葉で伝えようとすることが増えており、一対一で話を聞いたり代弁することで、何を求めているのか明確にし、保育士の一方的な関わりにならないよう気をつけてきた。
・子どものやりたいことや思いをできるだけ優先してきたが、それらが通らない時の代替案や、子どもが納得する関わり方が難しく感じた。
　楽しみに繋がる方法は沢山あるので、その都度考えながら保育していきたい。
・子どもが自己主張するときは、その都度気持ちを丁寧に受け止め、一人一人に寄り添う配慮が足りなかったことを反省する。

## ◎　環境を通して行う保育

・子どもの「やってみたい」「知りたい」という思いが出せるような環境作りに努めた。
・して欲しい経験や育ちに繋がることも多く、さらに広い視野での環境作りを大切にしていきたい。
・子どもならではの感覚や表現が発揮できるような関わり方を心がけ、お気に入りの玩具や素材は十分に数を準備することで、トラブルを減らし遊び込めるようにした。自分達で遊びを発展させていく姿も見られるようになり、その成長を嬉しく感じた。
・0 歳児保育室の環境については、子どもの遊ぶ様子、発達段階に合わせて、保育士間で話し合いをしながら変更したり、新たに玩具を設置したりしながら工夫してきたことで、子ども達が意欲的に安心して遊べる環境が提供できたと思う。
・戸外遊びや散歩を通して、身近な虫や草花、木の実、落ち葉などに触れ、会話や遊びに発展していった。
・野菜を栽培することで、生長に興味、関心を持つことができ、収穫を楽しんだり食べてみようという気持ちを持つことができた。

## ◎　職員の資質向上

・園内研修では、保育課程の見直しや指針の確認をしていくことで、改めて保育への取り組み方を考えることができた。
・コロナの影響で、園外での研修に参加できず残念だった。しかし、新たにオンライン研修という新しいやり方を学ぶことができた。緊張することなく、リラックスしながら研修がうけられる点では良かった。
・クラスの中でやりにくい点や困ったことなどを職員間でこまめに話し合うことで、工夫や改善することができ、保育を円滑に進めることができたと思う。
・保育の振り返り、反省の時間をつくり日々の保育に繋げていくようにしたい。

## ◎　保護者に対する支援

・子どもの様子や成長を伝え、喜びを共有することができたが、家庭ではやろうとしない、食べようとしないというギャップの話も多かった。園での頑張りを伝え、保護者の考えを聞いたうえで焦り等を感じないよう対応し、子どものやる気や甘えを受け止めて欲しい旨を伝えてきた。
・保護者の表情を見たり、聞こうとしていることや不安に思うことを汲み取れるような対応を心がけ、一緒に考えていけるようにした。
・個別懇談では、保護者からの相談に応じて、共通理解を得られるようにした。コロナの影響で園内の様子を見てもらうことが難しい為、食事の与え方や寝かしつけに困っている保護者には、懇談会の機会に園の食事スペースや午睡の仕方などを見てもらい、分かりやすく説明することができた。
・コロナ禍で以前より、直接話す機会が少なくなった保育士は、分かりやすく丁寧に対応することを心がけた。